

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情 7 第 1 2 号	受理年月日	令和 7 年 2 月 6 日
件 名	三年進級時、在籍人数が大幅に増える目黒西中学校に対して区の財政措置を伴う支援を求める陳情		
<p>【陳情の趣旨】</p> <p>目黒区立目黒西中学校のホームページに、開校時第三学年の在籍予定数は 1 1 6 人、学級数は 3 と明記されています。各学級の人数は 3 8 人から 3 9 人となります。</p> <p>令和 6 年度の学校基本情報によれば、第八中学校の二年生は 6 8 人（2 学級）、第十一中学校の二年生は 4 7 人（2 学級）です。この両校の 1 1 5 人（西中のホームページでは 1 1 6 人）は「統合」によって学級数が減り、二年生時より多人数の学級に在籍することになります。</p> <p>学校基本情報によれば、令和 7 年度の三年生で、3 8 人を超える学級になるのは西中だけです。</p> <p>現十一中二年生は、三年生になると、遠くて起伏の多い通学路を歩き（自己負担でバスに乗ろうとしても運行していない）、慣れない校舎で、二年生時の 2 4 人よりも大幅に人数の多い学級での生活することになります。学校に行きたくないと思う子が出て来ないでしょうか。令和 8 年度から実施される中学校の「3 5 人学級」が適用されないことで大きな「不利」にさらされる西中新三年生を「決まりだから仕方がない」「不運」で片付けてはいけません。</p> <p>子どもや保護者の中には少人数での指導を求めて隣接校や私立中学校進学を考えるとという声もあります。大勢での切磋琢磨ではなく、一人ひとりを丁寧に見て欲しいという切実な声です。</p> <p>目黒区の「子ども総合計画改定に係る基礎調査」を見て、「自分は役に立たないと強く思う」中高生が 3 2 % もいるというアンケート結果に出会いました。自己有用感を持ってない若い世代が少なくないことを私たちは重く受け止めなければならないと思います。</p> <p>進路選択の迫る義務教育最終年には、どの子ども、ゆとりある人間関係のなかで、自分に合った学習指導を受け、きめ細かい相談を経て納得のいく進路選択できる環境づくりに、区は責任を持つべきです。統合以前よりゆとりある充実した教育環境こそ、統合の意義だと思います。「制度」上、学級増が不可能ならば、目黒区が三年生を支援する大人を配置してください。</p> <p>新校の立ち上げで、教職員は多忙を極めることが予想されます。使命感や善意はあっても、努力や工夫には限界があります。先生たちを疲弊させないように応援して子どもたちを助ける目黒区であってほしいです。</p> <p>目黒区議会と目黒区教育委員会は、子どもたちの豊かな学びと安心な生活、並びに、教職員の健全な働き方を保障するために、「制度」や「慣例」を超えて、統合加配の他に、新三年生の支援のために、区費で大人の人数を増やしてください。</p>			

多忙極まりない現場の工夫任せにしない指導性を発揮してくださることを期待します。

以上の理由から次の陳情をいたします。

【陳情事項】

三年進級時、大幅に学級在籍人数が増える目黒区立目黒西中学校への区の財政措置を伴う支援を求めます。